

2018年6月25日

株式会社 リクルートホールディングス

平面と空間の境界線を探る 柳原照弘展『Layerscape』開催

株式会社リクルートホールディングス（本社：東京都千代田区、代表取締役社長 兼 CEO：峰岸真澄）が運営するギャラリー「クリエイションギャラリーG8（<http://rcc.recruit.co.jp/>）」では、2018年7月4日(水)より8月7日(火)の期間、柳原照弘展『Layerscape』を開催します。

柳原照弘展『Layerscape』について

柳原照弘は、1999年大阪芸術大学卒業後、2002年に自身のスタジオを設立。その後、京都や大阪を拠点に、家具やプロダクトのデザイン提供や、インテリアの設計などを中心に活動してきました。

有田焼が再評価されるきっかけともなった佐賀県とオランダ共同の有田焼プロジェクト、佐賀県有田焼創業400年事業「2016/」のディレクターを務め、ミラノサローネへの参加など、有田焼の伝統と革新的なデザインを融合させ、広く世界にアピールしてきた柳原氏。また、スウェーデン、イタリア、フランスなど海外ブランドへのデザイン提供や、家具ブランド KARIMOKU NEW STANDARD、革小物ブランド TYP/Morpho、陶磁器ブランド 1616/ arita japanをはじめとする国内ブランドの設立に携わるなど、ジャンルを横断したプロジェクトを多数手掛けています。

柳原氏の常にベースにあるのは「デザインする状況をデザインする」という考え方。「どうデザインしたいか」ではなく、関わるひとと一緒に、求められているものは何か、本当に必要とされているものは何か、「だれが、何のために、どう使いたいか」ということに徹底的に向き合い、共に考え、その状況をデザインし、発信していく。そこからは、クライアントワークだけでなく協同者との信頼関係の構築がうかがえます。

ひととものと空間が結びつき、どのような状況が生まれるか、それらの状況をまるごとデザインしたい、という考え方は、本展で、布を使用したインスタレーションによりアプローチされます。普段あたりまえにある光や風の揺らぎ。布によって作り出されたレイヤー。そこにひとが入ったとき、どのような表情の変化をみせるのか。来場者が存在することではじめて成立する、またその状況によって空間が刻々と変化する、実験に満ちた展覧会です。

展覧会概要

- 企画展名 柳原照弘展『Layerscape』
- 主催 クリエイションギャラリーG8
- 協力 Kvatrat Japan、株式会社サンマリノ、NEW LIGHT POTTERY、2016株式会社、株式会社竹尾、株式会社坂井印刷所
- 会期 2018年7月4日（水）～8月7日（火） 11:00～19:00 日曜・祝日休館 入場無料
- 会場 クリエイションギャラリーG8
〒104-8001 東京都中央区銀座8-4-17 リクルートGINZA8ビル1階
TEL 03-6835-2260 <http://rcc.recruit.co.jp/>
- オープニングパーティー 日時：2018年7月4日（水） 19:00～20:30
- トークショー 第289回クリエイティブサロン
日時：2018年7月20日（金） 19:10～20:40
会場：クリエイションギャラリーG8 参加無料 要予約 <http://ptix.at/T7xeLS>
出演：服部滋樹、原田祐馬、柳原照弘 *敬称略
- 第290回クリエイティブサロン
日時：2018年8月3日（金） 19:10～20:40
会場：クリエイションギャラリーG8 参加無料 要予約 <http://ptix.at/asqMzR>
出演：三木 健、柳原照弘 *敬称略

【本件に関するお問い合わせ先】
<https://recruit-holdings.co.jp/support/form/>

«プロフィール»

柳原 照弘 Teruhiro Yanagihara

1976年香川県生まれ。デザイナー。2002年自身のスタジオを設立。デザインする状況をデザインするという考えのもと、国やジャンルの境界を超えたプロジェクトを手がける。クリエイティブディレクターとして家具ブランド KARIMOKU NEW STANDARD、革小物ブランド TYP/Morpho、陶磁器ブランド 1616/ arita japan、佐賀県とオランダ共同の有田焼プロジェクト2016/ 等の国際的なブランドの立ち上げに参加。作品所蔵：フランス国立造形芸術センター（CNAP）等。

共著に『リアル・アノニマスデザイン』（学芸出版社）、『ゼロ年代11人のデザイン作法』（六耀社）等。



(Photographer : Anneke Hymmen)

«展覧会に寄せて»

本展でどうしても行いたかったのは、平面と空間の境界線を探る旅。

与えられたスペースと、光を閉じ込めた布のレイヤー、そして来場者による思いもよらない動きが混ざり合う複雑なアンサンブル。

普段からクリエイティブの原点として意識している、平面と空間の曖昧な境界線を感じてもらいたいと思います。

柳原照弘のこれまでの作品



1616/ arita japan TY "Standard"
Photo:Kenta Hasegawa



2016/ Editions Series Teruhiro Yanagihara
Photo:Takumi Ota



2016/ Exhibition at Milano Salone 2016
Photo:Takumi Ota



Bijuu
Photo:Takumi Ota



ne
Photo:Takumi Ota



KIZUKI+LIM
Photo:Choo



餅匠しづく
Photo:Takumi Ota